

伊丹市中心市街地活性化基本計画について

伊丹市都市創造部都市企画室 主幹 綾野 昌幸

1. はじめに

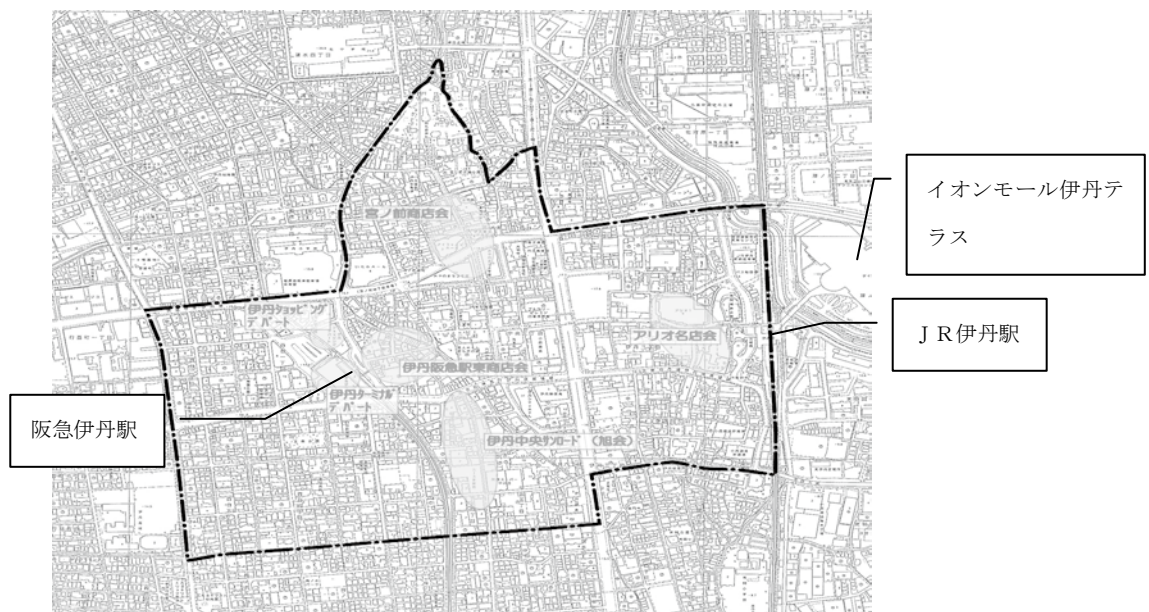
本市は、兵庫県南東部に位置し、神戸市から約 20 km、大阪市から約 10 km の圏域にあり、面積 25.09 km²、人口約 19 万人を有しています。地形は、北から南にかけてやや傾斜していますが、市全域において起伏の少ない平坦な土地となっており、また、遠くに六甲や長尾山系の山並みを望み、市域の東部を猪名川、西部を武庫川が流れる豊かな自然環境にも恵まれた地域です。

交通としては、JR 福知山線及び阪急伊丹線を利用することにより、大阪、神戸方面へのアクセス性は高く、また、大阪国際空港のあるまちとして全国的に知られています。

2. 中心市街地の概況と区域

本市の中心市街地の大部分は、かつては「伊丹郷町」と称され、摂津の国の中心として歴史ある地域としても知られています。盛時には 80 軒近い酒造家が軒を並べるなど酒造業も盛んで、資産を築いた酒屋の旦那衆たちにより、俳諧や書画が流行し、文化の香り高いまちとなりました。中心市街地にある酒蔵のたたずまいや荒木村重の有岡城跡などが往時の繁栄を物語っています。

現在の中心市街地は、東の拠点を JR 伊丹駅とアリオ、西の拠点を阪急伊丹駅とタミータウン、伊丹ショッピングデパート、北の拠点を猪名野神社と宮ノ前商店会、南の拠点をサンロード商店街と伊丹シティホテルとし、これら 4 極を東西、南北に結ぶ歩行者優先道路の 2 軸で構成され、都市機能が集積し、市民の日常生活の中心となっている地域です。



中心市街地商業集積の分布図

3. 新たな基本計画の策定

前中心市街地活性化基本計画を策定してから様々な活性化策を講じてきましたが、周辺地域での大規模店出店による中心市街地商業の衰退、まち衆（まちづくりの担い手）の不足などにより、中心市街地は依然として厳しい状況にあります。

そこで、「都市機能の集積・商業機能の充実」、「地域資源を活用した事業展開の推進」、「市民が主体となったまちづくりの推進」を基本方針とした、新たな活性化基本計画を策定しました。

4. 中心市街地活性化のコンセプト及び基本目標

中心市街地の現況及び課題を踏まえ、伊丹市の中心市街地活性化のコンセプト及び基本目標（目指すべき将来像）を次の通りと考えています。

(伊丹市中心市街地コンセプト)

人とことばの辻街道 伊丹郷町

①暮らしやすく、集い学べる郷町（まち）なか

～ことばと文化が大切に育まれているまち～

中心市街地内に多数有する文化施設を活用し、平成18年3月に認定された「ことば文化都市伊丹」特区の推進事業を中心とした取り組みを精力的に行うことにより、“ことばと文化を大切に育む”伊丹市の新たな都市イメージの発信・定着・確立を図るとともに、人と人とのふれあいが増加し、地域コミュニティが強化されている誰もが暮らしやすく、集い学べる郷町（まち）なかの実現をめざします。

②歩いて楽しい郷町（まち）なか

～歩くたびに新たな魅力を再発見できるまち～

4極を結ぶ2軸において、高齢者や障がい者、子ども連れの親子を中心として、誰もが歩きやすい歩行者空間を確保するとともに、2軸の交差点上に位置し、人々のたまり空間でもある「まちの駅」として整備する三軒寺前広場におけるオープンカフェや、春・秋の宮前まつり、夏のふれあい夏祭り、冬の蔵まつりなど1年を通して伊丹の魅力を発信しているイベント等を実施するとともに、魅力ある店舗が増

え、商業が集積することにより、歩くたびに新たな魅力を再発見し、誰もが歩いて楽しい郷町（まち）なかの実現をめざします。

③活気あふれる郷町（まち）なか

～まち衆が輝いているまち～

本市の貴重な人的資源である、「まち衆」（市民、商業者、事業者、学生などまちづくりの担い手）が活躍できる場や機会を提供することにより、広く市民に対して地域への関心を醸成し、主体的な参画を促し新たな「まち衆」を育成するとともに、商業施設において、大規模店とは異なるサービスの提供や商品の充実など魅力ある店舗展開を図ることにより、まち衆が輝く活気あふれる郷町（まち）なかの実現をめざします。

5. 具体的な数値目標

目標1:「暮らしやすく、集い学べる郷町（まち）なか」の数値目標

①中心市街地内における文化施設(9施設)利用者数
※本市では、整備予定の新図書館をはじめ、いたみホール、アイフォニックホール（音楽ホール）、アイホール（演劇ホール）などを中心市街地に集積させています

★文化施設（9施設）利用者数
600,600人（平成18年度）
→ 1,146,000人（平成24年度）

目標2:「歩いて楽しい郷町（まち）なか」実現のための数値目標

①2軸における歩行者・自転車通行量（休日10時間の5ポイントの総和）

★2軸における歩行者・自転車通行量
（休日10時間の5ポイントの総和）
32,440人 → 40,000人

目標3:「活気あふれる郷町（まち）なか」実現のための数値目標

【まち衆の増加】

①まちづくりサポーター制度登録者数

★まちづくりサポーター制度登録者数
60人（平成19年） → 445人（平成24年）

【空き店舗数の減少】

① 中心市街地の空き店舗数

★中心市街地空き店舗数
113 店舗 (平成 19 年) → 78 店舗 (平成 24 年)

6. 基本計画における主な事業

① 新図書館整備事業

② 交流センター（仮称）整備事業

ことば文化都市伊丹の拠点として、現在暫定利用している宮ノ前の花摘み園の土地に、人口 20 万都市にふさわしい新図書館本館を建設し、都市機能を集積します。また、図書館本館の他に、乳幼児の親子連れ、子どもから高齢者などあらゆる世代が談話やイベントなど楽しむことのできる交流ゾーンや、伊丹郷町の歴史が分かる歴史文化ゾーンがある施設を整備し、人のふれあい、交流を促進していきます。



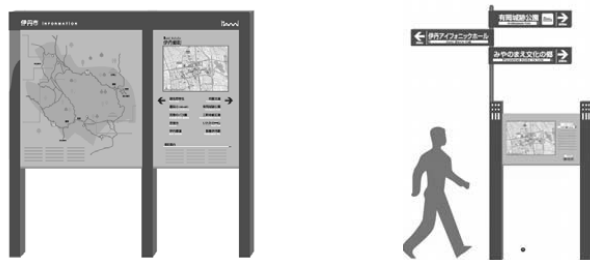
新図書館整備事業、交流センター（仮称整備事業）イメージ図

③アーケード整備事業

生鮮食品など主に最寄品を扱う店舗が約 60 店並ぶ伊丹中央サンロード商店街において、老朽化したアーケードの再整備を行い、人々が快適に買物できる空間を整備し集客性を高めるとともに、中心市街地内のイベント開催時の南の拠点として交流機能を強化し、にぎわいある商業施設を目指します。

④中心市街地案内サイン整備事業

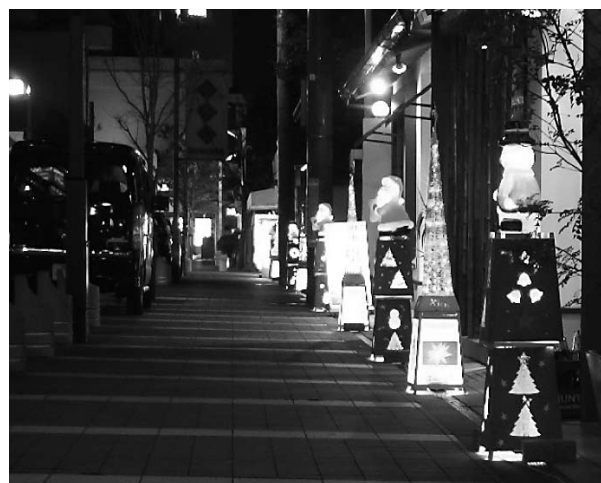
現在、中心市街地にあるさまざまなサインを整理し、新たに統一的なデザインによる案内サインを整備することで、各文化施設、公共施設、歴史資源などへスムーズに誘導することにより、来街者の回遊性を図ります。



案内サイン整備イメージ

⑤夜間景観形成事業

中心市街地の東西を結ぶ中央伊丹線において、沿道の住民、商業者が主体となったライトアップを実施します。（この地域住民等による取り組みが評価され、中央伊丹線沿いの伊丹酒蔵通り地区が平成 20 年度都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」を受賞しました。）



伊丹酒蔵通り地区ライトアップ

7. おわりに

この新たな中心市街地活性化基本計画策定後、経済状況が非常に厳しく、商業環境はさらに悪化しています。しかし、中心市街地において新旧の市民活動組織の活動が活発になり、さらに新たな連携のきざしが見えるなど、活性化に向け明るい兆しもありますので、行政も良好なパートナーシップを築いていくことにより、基本計画を推進して、数値目標を達成していきたいと考えています。

（あやの まさゆき）